

絵本の活用

どう伝えてよいのかわからない...
そんな時には絵本からはじめてみませんか。
こどもが自分の体を大切に思う気持ちを育てる
絵本がたくさんあります。
ゆいぽーと図書資料室にある中から、こどもが安心して
自分の体を大切にできるようになる絵本をご紹介します。



だいじだいじどーこだ？



作者：遠見 才希子
絵：川原 瑞丸
発行：2021年7月 大泉書店
3歳～小学校低学年向け

じぶんのからだはじぶんのものということを前提に、ブライベートパーツについて学びます。また、からだの大切さだけでなく、自分も他人も一人ひとりが大事な存在だということを伝えるはじめての「からだ」と「性」のえほんです。

性の絵本 せいってなーんだ？



著者：たきれい
監修：高橋 幸子
発行：2022年11月 KADOKAWA
3歳～大人向け

性とは「じぶんらしさ」です。そこには「こころの性」「からだの性」「こいの性」の3つの見方があることの紹介や、自分が言いたくないことは言わなくてもいいし、聞かれない人もいいということを分かりやすく描いています。人と違っていい、あなたもわたしもそれぞれみんな特別な存在ということを教えてください。こどもから大人まで大切なことを考えるきっかけになります。多様性について一歩先の性教育を始めてみませんか。



広島県
性と健康の相談センター
広島県健康福祉局子供未来応援課
電話相談・オンライン相談等



こどもや子育てに関する
相談先

こども家庭センター
広島市こども未来局
こども青少年支援部
電話相談 居住区にお問い合わせください



広島市
青少年総合相談センター

電話相談・面接相談（要予約）



ゆいぽーと
広島市男女共同参画推進センター

なんでも相談
女性 082-248-3315
男性 082-545-6160

女性のための面接相談受付
法律・就労支援・こころ
082-248-3312



広島市男女共同参画推進センター(ゆいぽーと)

TEL 082-248-3320 FAX 082-248-4476

開館時間 9:00～21:00

休館日 月曜日、祝日法に規定された休日（日曜日を除き、当該休日が月曜日のときは、その直後の休日でない日）、8月6日、年末年始（12月29日～1月3日）

ホームページ <https://www.yui-port.city.hiroshima.jp/>

発行 令和8年8月

いつから始める？
こどもの性教育

広島市男女共同参画推進センター
ゆいぽーと

こどもの性教育って？



性教育は生命(いのち)の安全教育です。

生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、生命を大切に考えることや、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を発達段階に応じて身に付けることを目指すものです。

こどもたちに、そして、社会に

- ・生命（いのち）の尊さや素晴らしさ
- ・自分を尊重し、大切にすること（被害者にならない）
- ・相手を尊重し、大切にすること（加害者にならない）
- ・一人一人が大切な存在であること（傍観者にならない）

というメッセージを、発信し続けることが重要です。



幼児期に知っておきたいこと

- ・自分の体は自分だけのものであり、大切にすること。
- ・自分だけの大切なところ（「水着で隠れる部分」等）は、見せたり、触らせたりしてはいけないことを意識すること。
 - ※水着で隠れる部分は、「プライベートゾーン」、「プライベートパーツ」といわれることもある。
- ・自分の体を見られたり、触られたりして嫌な気持ちになったときの対応方法を身に付けられること。
- ・自分の体と同様に、相手の体も大切にすること。
- ・相手の大切なところを、見たり、触ったりしてはいけないことを意識すること。

※自分の体：体はどこもすべて大切なその人だけのもの（プライベートなところ）といった、誰もが心と体が尊重されることを表す用語として「プライベートゾーン」「プライベートパーツ」がある。
なかでも、むね、おしり、性器、口を指して用いられ、水着で隠れる部分と説明されることがある。

文部科学省、「生命（いのち）の安全教育」より抜粋

どうすればいい？

家庭でできる性教育は「特別な授業」ではなく、日常の中で少しずつ、繰り返し、安心して話せる雰囲気づくりが大切になります。その積み重ねが、こどもにとって「困ったときに相談できる大人がいる」という確かな安心感につながります。

1. 「からだは自分のもの」 ということを日常の中で伝える

嫌なことは「イヤ」と言ってい、触られたくないときは断ってい、他人の体も同じように大切だということを日常の中で伝えましょう。

2. 正しい名称で体の部位を伝える



3. 質問には短く正確に

年齢に合わせて、聞かれた分だけ答えるのがコツです。

4. 同意(Yes/No)を家庭のルールにする

「ハグしていい？嫌なら断っていいよ。」と日常に取り入れることで、性暴力の加害や被害の予防につながると国際的にも示されています。

5. ネットやSNSの危険を“禁止” ではなく“理解”で伝える

現在、性被害の多くはSNS経由です。写真を送らない、個人情報や渡さない、困ったらすぐに相談していいということを伝えましょう。また、「ダメ」ではなく、なぜ危険なのかを一緒に考えてみましょう。



今日からできる一歩

性教育は家庭の中の小さな会話から始まります。できることをできるときに少しずつ、完璧でなくて大丈夫です。あなたの言葉がこどもの未来を守り、こどもの「生きる力」になります。

産婦人科医より



医師 保谷 茉莉 さん
一般社団法人ココテラスひろしま

小さい子に“性”の話をして大丈夫？

小さいときから、こどもの発達に応じて段階的に性のことを教えることが大切、と言われています。小さい子は好奇心が旺盛で、特に自分のからだ、性器に興味津々だと思います。そういうときこそ、正しい知識とふるまい方を教えるよいチャンスです。親も、慌てず、恥ずかしがらず伝える方法を事前に考えておきたいですね。

親が恥ずかしいときはどうしたらいい？

親の世代は性教育をきちんと受けてきませんでしたから、どう伝えたらいいか困惑してしまうのも無理はありません。自分も改めて学びなおすつもりで、正直に「お父さん・お母さんもうまく伝えられないから一緒に図書館で調べてみよう」と一緒に学ぶというのはいかがでしょうか。

家庭では何を話せばいいの？

まずは「プライベートゾーン」の理解を深めることが大切だと思います。親は、乳児期のお世話の延長でついこどものプライベートゾーンの配慮に欠けた行動を取ってしまいがちです（おしりを軽くタッチする、トイレのドアをノックせず開ける、いつまでも入浴を一緒にする等）。成長・発達により、自分で体を洗い、トイレができるようになれば、親であってもプライベートゾーンを本人の許可なく見たり触ったりすることは慎んだ方がよいと思います。そのような理解が、他人のプライベートゾーンを大切にすることができるようになり、また自分のプライベートゾーンが侵害されたときに、性被害を訴えることができるようになります。

保護者の方へ

「性教育が大切ということはわかるがどう始めれば？」と親は悩みます。そういうときは、一緒に学ぶつもりで書籍や絵本、専門家のアドバイスなどを参考にしてはいかがでしょうか。昔はこうだったから、ではなく大人も日々情報をアップデートできる、そういう姿をこどもにみせたいですね。